

## 「3D プリンティング建設技術の課題と将来像を描く」 ワークショップを開催

2018.11.6

第 5 回の全体委員会では、通常の会議形式を抜け出し、凝り固まった頭をほぐしより自由な発想で、3D プリンティング技術がどのように未来の社会に貢献できるか、またニーズはどこにありそうかを探求するワークショップを開催しました。

ワークショップでは 3~4 名ずつ 4 つの班に分かれ、模造紙と付箋を使って、以下の流れに沿って楽しく活発な議論がなされ、最後に班ごとに発表会を行いました。

### 1. 3D プリンティング技術のメリットをブレスト

- ・ 3D プリンティング技術のメリットを思いつく限り書き出し、それが 3D プリンティング技術独自のメリットなのか、他の技術でも代替可能なのかを分類する。これにより、3D プリンティング技術のポテンシャルを探る。

### 2. 社会の変化をイメージし建設産業の課題をブレスト

- ・ 今後 50 年程度のスパンで社会にどのような変化が起きるか予測した参考資料から、各自が印象に残った社会の変化を自由にピックアップし、未来の社会を年代ごとに俯瞰的に見渡してみる。これにより、社会の変化や時代の流れとともにどのような課題が生まれるのかを可視化し、それにつながる建設業の課題を連想して研究開発の目標設定に役立てる。

### 3. 3D プリンティング技術で何ができるかをブレスト

- ・ 2 で抽出した課題に対し、3D プリンティング技術を用いて解決すべき課題か、あるいは他にも解決手段はあるが 3D プリンティング技術でも解決できる課題に対して、その解決にはどのような特徴を用いる必要があるかを考える。これにより、3D プリンティング技術の開発において各年代に何を達成すべきかを、バックキャストで明確にする。

今回、従来の委員会では珍しいこのようなワークショップ形式を試みましたが、短時間で大きな成果が得られました。今後、これらの成果を集約して、建設分野における 3D プリンティング技術開発に関するロードマップの策定に反映していく予定です。

また、本ワークショップの開催にあたり準備・運営ご尽力いただきました石田副委員長、大野委員、西條圭祐氏（東京大学工学部社会基盤学科コンクリート研究室）の皆様、改めて深謝いたします。

